

平成 28 年度 シラバス

1	名 称	発電所見学会					
2	計 画 者	所属	会津大学短期大学部 産業情報学科		職名	教授	
		氏名	石光 真				
3	協力する教員	①	所属	※ 調整中		職名	
			氏名				
		②	所属	※ 調整中		職名	
			氏名				
4	対象となる学生	学 年	制限なし				
		専攻分野等	制限なし				
5	目的とねらい	<p>福島県の発電所を見学することにより、福島県が電力供給県であることを知る。各種の発電を知ることによって、大学間の交流学習会において電力需給の今後を考える。</p> <p>水力発電を中心に電力供給を行ってきた会津の発電所を見学する。</p> <p>海浜という特性を利用して火力発電所や原子力発電所を発展させてきた相双地方の発電所を見学し、それとともに津波による被災と復興の現状を学ぶ。</p> <p>このことにより、電力供給県たる本県が置かれた状況についての理解を深めるための課題探究力と、その現状を外へ発信する情報発信力を高めていく。また、大学間の交流学習会において異分野の見識を会場内にて共有することより、つなぎ・導く力を高めていく。</p>					
6	具体的な計画	実施時期	内 容				
		8 月	東北電力原町火力発電所（石炭） 相馬市、南相馬市の津波の被害と護岸等の復旧復興の現状を学ぶ。 大学間の交流学習会を開く。				
		9 月	J P o w e r 下郷発電所（揚水）を見学し、100 万 kW の出力を持つピーク電力の役割を知る				
			グリーン発電会津（木質バイオマス火力発電）を見学し、再生可能エネルギーでありながら安定的な出力を持ち、林業振興にもつながる木質バイオマス発電について学ぶ。				
			J P o w e r 郡山布引高原風力発電所を見学する。				
7	内容と期待される学修成果		内 容	期待される学修成果	Step		
		基本的な姿勢	エネルギー供給の現状を虚心坦懐に学ぶ。	発電の現場を見学することでエネルギー供給の実態の理解が深まる。理工系の学生については就職先のイメージがつかめる。	3		
		課題探究力	安定的な電力供給とは何かという課題を探求する	各種発電を比較する中で理解が深まる	3		
		課題解決力	二酸化炭素排出を減らすという課題を考える	各種発電を比較する中で理解が深まる	2		
		情報受得力 情報発信力	福島県の電力供給の過去と未来を発信する	過去も未来も福島県が電力供給県であることの理解が深まる	3		
		つなぐ力 導く力	大学間交流の学習会への参加	他大学、そして文理の専門を異にする学生との交流により視野が広がる	3		

		<p>目指す 学修成果</p>	<p>A radar chart with seven axes representing learning outcomes. The axes are labeled: 基本的な姿勢 (Basic Attitude), 課題探求力 (Topic Exploration Ability), 課題解決力 (Topic Solution Ability), 情報受信力 (Information Reception Ability), 情報発信力 (Information Dissemination Ability), つなぐ力 (Connecting Ability), and 導く力 (Guiding Ability). The scale ranges from 0 to 6. The data points are: 基本的な姿勢 (3), 課題探求力 (2), 課題解決力 (2), 情報受信力 (2), 情報発信力 (2), つなぐ力 (2), and 導く力 (2).</p>
8	<p>関連する科目</p>	<p>日本経済論（会津大学短期大学部 経営情報コース専門科目） 卒業研究ゼミ（会津大学短期大学部 石光ゼミ）</p>	